

授 業 名 科 目 名	心理測定法	授 業 形 態	講 義
		配 当 学 期	2年（後期）
担 当 教 員 名	仲山 晃生	単 位 数	1単位
		時 間 数	30時間
授 業 概 要 学 習 目 標	<p>〔授業概要〕</p> <p>人の気持ちや考えなど、言語聴覚士が取り組む問題は、目で見えない心理的事象が少なくない。そのような問題を主観的な判断で治療や行為を起こすことは危険である。このような問題に対して、心理的事象をどの様に測定するのかを学び、実際に行うアセスメントと結び付けて理解していく。</p> <p>〔学習目標〕</p> <p>実際のアセスメント方法について適切な手法、測定方法などについての知識を得る。</p>		
授 業 回 数	授 業 内 容		
第 1 回	心理測定法とは 心理学の研究の中で最も基本となる「データをとること」について、その必要性和内容を概説する。		
第 2 回	精神物理学的測定法（測定対象） 物理的次元と心理的次元の対応関係を明らかにしようとする学問である「精神物理学」の測定対象について。		
第 3 回	精神物理学的測定法（測定方法） 代表的な精神物理学的測定法である、調整法、極限法、上下法、恒常法について。		
第 4 回	尺度水準 心理学の測定対象は直接的測定が困難なことが多い。測定結果が同じように数字で示されても、各々の測定で用いた尺度水準によって解釈が変わる。その4つの尺度水準について解説する。		
第 5 回	尺度構成法 心理量の尺度を作成する方法である尺度構成法の種類と内容について。		
第 6 回	誤差 実験の測定値には誤差が伴う。誤差の可能性を十分に理解し制御する工夫が必要。誤差の種類と特徴について。		
第 7 回	調査法（質問紙法） 質問紙法の長所と短所、質問紙作成上の注意点について。		
第 8 回	調査法（サンプリング） サンプリングの方法と種類について。		
第 9 回	信頼性と妥当性 検査の信頼性と妥当性の概念は、検査全般にかかわる基本的で重要な項目である。それぞれの種類と特徴について。		
第 10 回	記述統計法 データを集めたら、即分析ではなく、集めたデータを整理し、特徴を把握する必要がある。		
第 11 回	標準化 データの散らばりを表す値である、分散、標準偏差、範囲、四分位偏差を解説する。		
第 12 回	相関関係と因果関係 混同されやすい2つの関係の違いについて。		
第 13 回	統計的仮説検定 標本で起こった状況が「偶然か」「偶然ではないか」それを検定する方法について。		
第 14 回	t検定、分散分析、因子分析 それぞれの検定の違いについて。		
第 15 回	内的妥当性と外的妥当性 それぞれの妥当性の内容と違いについて。		
評 価 方 法	定期試験において評価（100%）		
教 科 書 参 考 図 書	〔教科書〕 適宜資料を配付する。		
履 修 上 の 留 意 点	実験などについては楽しく真剣に臨むこと		
メ ッ セ ー ジ	なし		